



東京小諸会の会員の殆どが、小諸で生まれ、小諸で育ち、小諸を離れ、小諸をふるさととしている第一世代の会員です。お子さまやお孫さまが生まれ育った地は第一世代である現会員の皆様が活動している現在の市町村であります。お子さまやお孫さまはそこが第一のふるさとも知れませんが、そのお子さまやお孫さまに会員のみな様やご先祖の故郷である小諸を第二の故郷

と市民になっていただく。また、東京小諸会の会員にもなっていく。お孫さまには小諸こどもふるさと市民の登録を——お孫さんやお知り合いの子どもさんには小諸こどもふるさと市民になっていただく。

郷として、伝えていくことはありませんか。



お子さまには小諸ふるさと市民の登録を——

自然豊かな、人情にあふれた歴史の漂う、自然、文化、産業等の豊富なふるさと小諸を訪れて、楽しんでいただく。小諸市関係者と東京小諸会との連携により、ふるさと市民向けの事業を新たに創造して小諸への愛着が深まる小諸ふるさと市民の仲間を増やしていくことはありませんか。

特に子どもを通じその家族や友人が小諸に関心を持てるような事業の取り組みを推進しようではありませんか。

人の活動範囲が多様化かつ複雑化する社会の中で、意図的に第一、第二の故郷を持ち複数の地域社会で共存するということも楽しいことではないでしょうか。



す。歴史、文化、伝統などはそこに住む人々が数百年、数千年かかって築いてきた貴重な財産です。小諸にはそのような財産が豊富にあります。その財産を活かし、活性化し、再開発し、小諸のみなさんと東京小諸会が一体となって小

諸ふるさと市民、小諸こどもふるさと市民に提供し、楽しんでもらいたい小諸の魅力に繋がるような事業の具体的な企画や実施を検討する。そんな組織が構築できればと願っています。その原動力は小諸ふるさと市民であり、小諸こどもふるさと市民です。

小諸ふるさと市民 小諸こどもふるさと市民 みんなの力で推進しよう



豊かな自然と情緒あふれる人とのふれあいの町小諸。小諸市では「住みたい、行きたい、帰ってきたいまち小諸」を合言葉に「小諸ふるさと市民」を募集しています。小諸市民以外は誰でも登録できます。数々の特典があり、東京小諸会又は小諸市のHPをご覧ください。東京小諸会から行事等のご案内をいたします。東京小諸会の会員登録と合わせていただくとう便利です。



小諸市キャラクター「こもろん」

す。登録は東京小諸会HPからできます。また東京小諸会では小中高生を対象に「小諸こどもふるさと市民」の組織を拡充中です。第二第三のふるさととして四季折々に小諸でのふるさと生活を体験する企画です。「小諸こどもふるさと市民」の中から「小諸こどもふるさと大使(YACK)」を任命し、小諸の行事に参加したり、小諸の宣伝をしていただきます。YACKの活躍は、四季報やHP等で配信します。

訪旅行や特別ゴルフコンペ等の他、小諸市の幹部との懇談会もあわせた特別企画等へのご案内をいたします。

問い合わせ先：
東京小諸会事務局



東京小諸会 ふるさと納税

ONE HUNDRED CLUB
会募集

ふるさと納税は、個人の住民税の範囲内の金額を自分が望む自治体（主にふるさと）に寄贈することにより、ふるさとの財政に寄与する制度です。自治体からはお礼に自治体特産品の返礼があります。小諸の返礼品には魅力的なものがあ



東京小諸会では「ふるさと納税— ONE HUNDRED CLUB」の会員を募集しております。ふるさと納税10万円以上の会員で、税額控除、返礼品等の他に、東京小諸会特別小諸探

編集後記

首都圏を流れる江戸川の土手道を疾走する。東京小諸会事務局へ向かう道のりである。途中トンネルの上に寅さん記念館が目に入る。そう、葛飾柴又である。寅さんと言えば四十八作中、寅次郎サラダ記念日が思い出される。小生と同時期に早稲田の杜の学生であった俵万智の代表詩集が題名の由来となったからだ。今になって不思議な縁を感じることはその物語の舞台が小諸だったこと。当時、自身は母校での口々に高揚感を覚えたが小諸の方々にはさぞかし胸躍ったことだろう。マドンナの三田佳子さんが小諸病院の女医という設定だった。寅さんと言えば渥美清さん、渥美清さんは「上を向いて歩こう」の作詞者で小諸にゆかりのある永六輔さんとも縁がある。戦後焼け跡の金属を換金し、東京秋葉原で部品を買い鉱石ラジオを組み立てるグループに永さんが参加していたが、そのグループリーダーが何と渥美清さんであったとのこと。有名人がそんなところで、惜しくも今年亡くなった小林亜星さんも含めまさに縁は異なものである。

原口慎二
九州出身

少年時代

東京浅草の蔵前で生まれ小学校一年の時、東京計器に勤めている父の会社が、小諸に転勤になり一家で小諸に引っ越してきました。

小学校は野岸小学校です。中棚に住み五十分ぐらい歩いて毎日小学校に通いました。

夏は千曲川や東京電力のダムなどで泳いでいました。今でも泳ぎは大好きです。

キャンプもよくいきました。高峰浅間山のおもとも楽しい夏を満喫しました。布引観音でよく遊びました。

夏の盆踊りは懐古園の広場や駅前広場で行われました。中学校の校長先生が、楽しみに踊っていたのを今も思い出します。

中学の時、八幡神社で少



稲垣信克(中棚出身)

小諸商業高等学校校歌

年相撲大会に出ました。一回目で負けてしまいました。冬はスキーを、高峰で滑りました。四季折々楽しい思い出がいっぱいです。

中学からは、新聞配達を小諸商業高校卒業まで頑張りました。中学時代は、一か月四五〇円、高校時代は、一か月九五〇円でした。足腰丈夫になりまして、今も水上スキーを楽しんだりクルージングを楽しんでいます。

成長期にクラブ活動はしませんでした。新聞配達で、体が鍛えられてよかったです。

小諸は寒くて坂の街 だが元気になる街

先日、小諸で九十一歳の兄の作った取れたてのキュウリに味噌をつけて食べた。小諸産のきゅうりは瑞々しく、とてもおいしかった。

私は六十五年前の高校時代下駄だけで三十分蒸気機関車で上田に通った。冬の朝はマインス十五度になったこともあったが、足袋も、もも引きも履かずにやっていた。春になるといつもヒビ割れができた。

小諸は海拔約二千五百メートルの浅間山から千曲川まで、坂だらけの町である。私の父は浅間山まで一日二往復したと聞いている。この環境で育ったことが、八十一歳の今の元気な健康法に極めて役立つている。

昨年は、私が経営している会社もコロナ問題で影響が出

たが、そこでピンチはチャンスと考え、まず私が元気であることが大事なので、二キログラムのアンクルウエイトを両足につけ、毎日散歩をすることにしました。散歩の二時間半に昨日の出来事が浮かび、今日しなくてはいけないことをメモし、行動する毎日になった。元気であることは小諸の坂のおかげだと思っている。

小宮山栄(鶴巻出身)



坂道の多い町小諸

コラム

九月の初め、小雨の中、高校生の孫と松井農園を訪れた。八十年の歴史のこの農園はリンゴ狩りの他多彩な経営をしている。りんご畑の坂を上つていくと、道の分かれ目の台地に初恋の石碑が建つていて、藤村の初恋の詩である。詩全体が頭の中に彷彿して、りんご畑の甘酸っぱい香りが急に漂いはじめた。藤村の詩の記念碑は藤村の生家の馬籠には多いそうだがこの初恋の詩の石碑は馬籠にもなくて、馬籠の関係者が見に来られたとのこと。

懐古園の千曲川旅情の歌(一)「小諸なる古城のほとりと今建設準備中の千曲川旅情の歌(二)」とあわせて、この初恋の石碑もこれからの小諸の名所になってほしいと思う。小雨のなか、りんごを符る孫の姿が霞んで、その向こうにりんごを我に与えし人の姿が浮かんで消えた。

酸っぱさの

りんご畑の

初恋の碑

三楽と太郎

街道をゆく

司馬遼太郎のシリーズ『街道をゆく』の一篇に「信州佐久平みち」があり、その中に小諸の懐古園前の食堂でそばを食べた時のことが出てきます。司馬作品には珍しく、店内の雑な感じやサービス精神のない店員の対応に、極めて



そばの味は悪くなかったも

小諸に新たな歴史を(提案)

現在小諸では、第二藤村碑の建立計画が進行しています。場所は馬場裏の「藤村の井戸」広場の一面の予定で、小諸、懐古園、島崎藤村の名を知って頂き、県外からも多くの方々が訪れ小諸の良さを知って欲しいと期待しています。

二〇〇九年十一月に小諸市制施行五十周年を記念し小諸を題材にした「小諸わが想

い出」を作曲した小林亜星(小六の時市内から坂の上小に通う)さんと作詞者の永六輔(南大井から上田中学に通う)さんを市文化センターに招きシンポジウムを開いた。

二人は戦時中小諸に学童疎開をしていたことがきっかけで、一九九八年に「小諸わが想い出」を発表した。小林さんは、カボチャの「すいとん」を食べたり、高峰山に登った

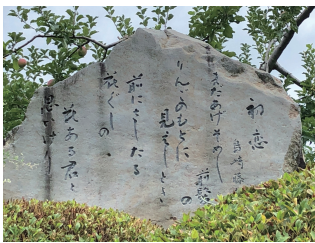
世界でも歌われている坂本九の「上を向いて歩こう」の歌碑の建立と市制施行五十周年を記念した「小諸わが想い出」記念碑の建立を提案したい。商都小諸の活性化、地

場企業・産業の育成、特徴ある農産品、林業の再生に取り組んで欲しいと願っています。

す。観光資源の発掘、居住人口増、流通人口増に思い切って挑戦しませんか。

渡辺静雄(紺屋町)

前東京小諸会会長



松井農園内 初恋の碑

屋にもよく行きました。歯ごたえのある手打ちそばは絶品ですが、大食いの私でも大盛りを敬遠し中盛りがせいぜいでした。

コロナ禍が終わり、信州で

そばを腹一杯食べたいものです。

内藤徹雄
元其栄大学 副学長

